

「モデル地域で地域計画の話し合いを開始」

京都府 向日市農業委員会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員	:	16人
○ 農地利用最適化推進委員	:	0人
○ 事務局職員	:	3人
○ (関係団体名)	:	
○ 市町村行政との連携状況	:	
市担当課が事務局を兼務している。		



2 地区の特徴、状況、課題

- 向日市は三方を京都市に囲まれ、面積が7.72km²と西日本一コンパクトな地域である。
- 水稻をはじめ、タケノコ、野菜、花きなど多様な農業が営まれている。
- 高齢化による担い手の不足だけでなく、地区計画による開発に伴い、農地が減少している。

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 農業委員会の会長が農家組合長を務める森本地域を、向日市のモデル地区として位置づけ、話し合いを開始することとした。
- 話し合い当日は、農業委員を含む地域の主な担い手の農業者12名が参集。
- 市から「地域計画」の概要説明を受けた後、過去の意向調査結果も踏まえ、現況地図の作成に取りかかった。
- 開発が進んでいる地域でもあることから、今後の農業振興も踏まえた計画づくりが必要である、との認識が共有された。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 地図を囲み、一筆ずつ、現状の耕作者の状況が確認出来た。
- 現状、耕作が行われていない農地は無いが、将来を見据えた営農の継続を目指していくため、今後、作成した現況地図をもとに、話し合いを重ねて目標地図の作成を目指す。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください